

## 活用する力を育てる授業の工夫～習熟度の差が大きい集団での実践～

## 中学部スペードグループの実態

上中 博美 (熊本大学教育学部附属特別支援学校)  
 吉村 昇 (熊本大学大学院教育学研究科)  
 菊地 哲平 (熊本大学大学院教育学研究科)

小1段階 2段階 3段階 中1段階 2段階

中3男子	■■■■■	計算得意 理由や根拠を話すことが苦手	集中が続かない 興味関心の偏り
中2男子	■■■■■	計算得意 理由や根拠を話すことが苦手	全体指示苦手
中1女子	■■■■■	意欲的 何でも興味をもつ 定着難しい	理由や根拠を自分なりに話す
中3女子	■■■■■	意欲的 衝動性 定着難しい	自分の考えを話すことが難しい

★習熟度の差が大きい／学習の定着、他の場面での活用が難しい



## 授業を通して身に付けてほしい力

数学の基礎的な知識・技能

基準となる考え方をもとに判断する力

既習事項を生かして考える力

身の回りの世界が数学で捉えられることに気付く

## 授業づくり

- 基礎を学習し、既習事項を活用する展開（ミッションをクリアしていく）
- ペアやグループでの活動と個別での活動の目標を明確に
- 個別の対応は宿題でも
- 定着させたい内容を抽出し毎回ミニコーナーで扱う

般  
習  
習  
定  
習

数と計算：基本の繰り返し  
(最も習熟度の差が大)  
測定：量感  
図形：細部への注目、似ている／違うを見付ける  
データの活用：よさを知ること

## 年間計画

6-7月	で覚時計 数(秒・分・分)・お 金など	数と計算	授業内容の確認や個人の課題
8-9月	な どを 繰り返 しのま まの感	図形	毎日の宿題
10月	な どを 繰り返 しのま まの感	測定	
11-1月	な どを 繰り返 しのま まの感	数と計算	
1-2月	な どを 繰り返 しのま まの感	データの活用	
2-3月	な どを 繰り返 しのま まの感	数と計算	

定  
習

## 授業での実践例【測定】

般

## 目標

おおよその長さの見当をつけることができる



ミッション1  
だいたい10cm じっさいは \_\_\_\_\_  
リボンをはる

だいたい15cm じっさいは \_\_\_\_\_  
リボンをはる

だいたい20cm じっさいは \_\_\_\_\_  
リボンをはる

目標  
測定結果を活用する

ミッション2  
○○先生のぼうしの  
サイズは？  

S	M	L	LL
54~55	56~57	58~59	60~

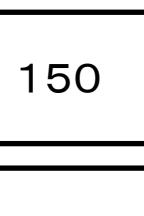
  
男女共通(cm)



## 授業での実践例【数と計算】

習

目標 数字が読めるようになる（空位のある2～5位数）  
数の大小が分かる



チラシ

習熟度の差が大きくとも一緒に参加できる学習活動

## 課題

一人に時間をかけすぎた  
一つの活動にじっくり取り組むことが大切（助言より）

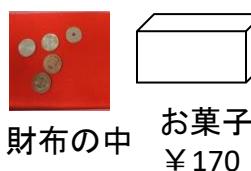
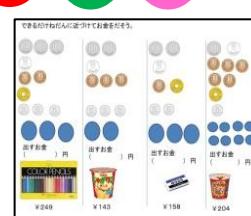
## 個別事例【数と計算】

習  
定  
般

## 目標

値段より多くお金を出して支払う  
実態

- ・ぴったりの金額は出せる
- ・ぴったりないと払えない
- ・お金を数えることはできる
- ・3位数の大小や読み方、書き方は定着していない



## 結果

宿題や授業の中では値段より多くお金を出せることが増えた  
50円玉が複数ある場合の計算ができるようになった

## 習熟度の差が大きい集団において「活用する力」を育てるために

個人の目標を明確にして授業を進める（この場面の生徒の目標は…）  
授業の中に既習事項を活用する場面を設ける  
体験的な学習活動は扱う数値に配慮すれば習熟度に差があっても参加しやすいが、この場合まとめをきちんと行う